

3 成果報告（令和 3 年度）

3.1 教育プログラム（カリキュラム及び教材開発）

起業家養成の教育プログラムは、マネジメント・マーケティング・ファイナンス等の融合型プログラムであり、当教育プログラムのための新設科目（講義 5 科目、事例研究・PBL 2 科目）から構成される。教育プログラムの体系を以下に示す。

3.1.1 修得すべき知識

今後期待される人財像として、自ら新しい事業を創出できるイノベーション高度人財が挙げられている。しかしながら、イノベーションを創出する起業家輩出の障壁として、2017 年度中小企業白書からは、「経営知識の不足」「資金方法の目処がつかない」「事業化の方法がわからない」などが挙げられている。本プログラムは、それら起業を阻む壁に対し、処方箋となる以下カリキュラムを提供する。具体的にはイノベーション、マネジメント、マーケティング、ファイナンスなどに関する基礎知識と、ケースならびに PBL による実践知識を提供する。

- 経営知識修得のためのマーケティング、イノベーション、マネジメントの基礎科目群
- 資金調達知識修得のためのファイナンス基礎科目
- 地域における業務知識・現状・課題修得のための福知山経済事情科目
- 事業構築など実践知識修得のための事例研究型、PBL 型科目

3.1.2 教育内容（授業科目等）、教育方法

本教育プログラムのカリキュラムは、以下の 3 段階から構成される。授業科目一覧は表 2、3 を参照されたい。

- 基礎科目の講義・演習型科目 3 科目以上（必修である福知山経済事情を除き、2 科目以上を選択必修）
起業家に必要とされる知識・スキルの修得
- 事例研究型科目 1 科目（必修）
事業開発手法の修得
- PBL (Project Based Learning) 型科目 1 科目（必修）
現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトの実行

本カリキュラムでは、基礎科目において起業家としての知識・スキルと、地域の課題等を講義・演習型科目で学ぶ。次に、事例研究型科目で事業開発手法を学ぶ。最終段階では、PBL 型科目で、現実の課題に対する問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。当教育プログラムの履修の流れを図 1 で示す。



図 1: 履修の流れ

《基礎科目：講義・演習型科目》

基礎科目では、起業家に必要とされる知識・スキルの修得のため、講義・演習型 5 科目を設定する。

- 〈選択型カリキュラム〉
社会人受講生は、既に修得している知識・スキル、現在までのキャリア、そして目標(アントレプレナー、イントレプレナー、事業承継等)も様々である。本プログラムでは、全ての科目を固定の必修とするのではなく、各受講生のキャリアプランに応じて必要とされる知識・スキルを修得できるように、基礎科目群から選択履修可能な仕組みとしている。
- 〈学修効果を高める教育手法〉
単に知識の修得だけではなく、実際に業務で活用できる事例に基づいた講義・演習・グループワークによる反復学修を、科目別に最も適した構成で取り込んだ教育手法を採用する。

《事例研究型科目》

実践事業デザイン特論では、ケーススタディ、ケースメソッド等の手法を用い、本プログラムにて独自開発した教材によって事業開発手法を学ぶ。

- 〈PBL 型教育を意識した独自教材〉
本科目では、本プログラムにて開発した独自教材の事例に基づいて、(フェーズ 1)受講生による事前準備、(フェーズ 2)小グループでのグループディスカッション、(フェーズ 3)クラスディスカッションという流れで授業を展開する。事例に対する要因分析から、問題解決のスキルを駆使して戦略立案することを経験し、PBL 型教育に対する準備とする。

《PBL 型科目》

本科目では、地域現状等から課題を抽出し、問題解決・事業開発のプロジェクトを実行する。実践プロジェクトを体験することで、知識・スキルの活用経験を蓄積し実践知識を修得する。

- 〈実証経験〉
各 PBL チームは、立案したプロジェクトについて、クラウドファンディング、イベント開催などの

方法により、実現可能性を検証する。この実証経験を通じてプロジェクト可否判断能力を養い、仮説検証のフィードバックプロセスを修得する。なお、各 PBL チームには複数名の講師が指導にあたる。

- 〈プロジェクト管理〉

本プログラム PBL では、プロジェクト計画を作成し、計画的に作業したり、計画を修正したりすることによってプロジェクト管理を体験する。

表 2 に、当プログラムの新設科目の概要、表 3 に、当プログラムの授業科目一覧を示す。

表 2 新設科目の概要

授業科目名	英語	担当教員	内容
福知山経済事情	Fukuchiyama Economic Situation	亀井省吾	活躍する行政、経営者、支援団体のマネジメントらを講師に招き、オムニバス形式で広く福知山の経済事情を学ぶ。行政の政策や地域企業の戦略、スタートアップの現状と課題について学ぶ。
地域マネジメント特論	Regional Management System	板倉宏昭	経営学に関する基本的な概念を理解し、経営や地域ビジネスに関する関心を深める。経営学と地域ビジネスに関わる基本的な考え方を検討することで、これらの理論が、実務においてどのように有効か、実務に照らして検証する。
ベンチャーファイナンス特論	Venture Finance	三好祐輔 亀井省吾	企業が起業から事業成長する過程で、どのような資金調達手段があり、資金提供を受けるにはどのような要件を満たす必要があるかを学ぶ。本講義ではアントレプレナー・ファイナンスにおける様々な論点を概観し、基礎的素養を習得することを目的とする。
企業イノベーション特論	Innovation	城裕昭	イノベーションの本質を理解する。には、自社が持つヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源や知的資産など知財も合わせ、現状を理解しながら実際に絵を描いていくことが重要である。新しい知識を増やししながら、ツールやフレームワークを活用して、イノベーションしていくための道筋を探っていく。
マーケティング特論	Marketing	鈴木宏幸	スタートアップに必要なマーケティングの視点・分析・検討留意点・策定等について、実際の課題解決に活用できる実践的な知見の修得を目指す。顧客視点に基づき、事業環境分析やマーケティング戦略をデザインすることを事例やミニケースも活用しながら学ぶ。加えて、最新のデジタルマーケティングについて入門的な理解を図る。

実践事業デザイン特論	Business Design	亀井省吾 鈴木宏幸 城裕昭 アドバイザー ー講師	先端的な事業開発の事例(ケース)を研究する。事例を理解することを通じて、その業界における課題を認識し、その課題に挑む事業マネジメントを擬似経験する。どのような課題があるかを明確にした上で、ソリューション(解)をチームで発案、検討し、結果をプレゼンテーションする。
実践事業創造特論	Project Based Learning	亀井省吾 鈴木宏幸 城 裕昭 石丸亜矢子 アドバイザー ー講師	プログラム最終段階として、現実の課題に対する課題解決やソリューションを具現化すべく事業開発のプロジェクトを実行する。知識・スキルの活用経験を蓄積し、実際に活用できるように錬成を重ねるために、PBL型の演習授業を行う。

表 3 授業科目一覧

種類	科目名	授業時間数
基礎	福知山経済事情	12
	地域マネジメント特論	12
	ベンチャーファイナンス特論	12
	企業イノベーション特論	12
	マーケティング特論	12
事例研究	実践事業デザイン特論	12
PBL	実践事業創造特論	12

3.1.3 授業期間

本プログラムは8月に始まり、翌年3月に終わる。授業期間は、概ね以下の通りである。授業は社会人受講を考慮し、平日夜間(18:30~20:00)と土日昼間(8:50~16:00)に開講している。

- 福知山経済事情:8月から11月下旬までの8回
- 基礎科目(福知山経済事情除く):8月から9月中旬までの8回
- 実践事業デザイン特論:10月初旬から11月初旬までの8回
- 実践事業創造特論:11月下旬から2月初旬までの8回*

* 3月にPBL成果報告会実施

また、欠席者への授業録画等の仕組みを活用した。

3.1.4 履修資格

高等学校を卒業した者、またはこれに準ずる者で、小論文による選抜に合格した者。

3.1.5 成績評価方法・基準

成績評価は 100 点満点での評価点を参考に、以下表にしたがい合否判定を行う。

表 4 成績評価

判定	評価点	成績
合格	100 点から 90 点	5
合格	89 点から 80 点	4
合格	79 点から 70 点	3
合格	69 点から 60 点	2
不合格	59 点から 1 点	1
不合格	0 点	0

一貫した成績評価を行い、教育の質を保証するため、以下の成績評価及び基準を設定する。

- 科目ごとに成績評価 5 あるいは 4 にあたる「上位到達目標」、成績評価 3 あるいは 2 にあたる「最低到達目標」という到達目標を設定し、これらに準拠した絶対評価を行う。各科目の到達目標はシラバスで公開する。
- 成績評価は原則として、授業の目的及び到達目標に則した複数の方法で行う。成績評価の方法及び比率(「課題レポート 30%、発表 30%、試験 40%」等)はシラバスで公開する。

3.1.6 修了要件

福知山経済事情含む基礎科目 3 科目以上を修了し、実践事業デザイン特論、実践事業創造特論を修了すること(内訳は下表参照)。

表 5 修了要件

科目群	備考	種別		
		必修	選択 必修	選択
基礎科目(福知山経済事情)		○	—	—
基礎科目群(福知山経済事情以外)	4 科目から選択	—	2 科目	○
実践事業デザイン特論	事例研究型科目	○	—	—
実践事業創造特論	PBL 型科目	○	—	—

修了要件の最小総授業時間数(基礎科目 3 科目、実践事業デザイン特論、実践事業創造特論) 60 時間(12 時間×5 科目)である。

3.1.7 担当講師

表6に、本プログラムの授業担当講師一覧を示す。このほかに、「福知山経済事情」、「実践事業創造特論」等では産業界、公共機関等からゲスト講師、アドバイザー講師等を招聘した。

表 6 担当講師

教員名	専任	実務家	当事業で担当する講義	学位・業績・経歴
亀井 省吾	○	○	福知山経済事情、ベンチャーファイナンス特論、実践事業デザイン特論、実践事業創造特論	本学教授、博士(学術)、元東京海上日動火災保険(株)勤務、Venture Capital 代表等
板倉 宏昭		○	地域マネジメント特論	本学客員教授、博士(学術)、東京都立産業技術大学院大学教授、元(株)日本IBM勤務等
三好 祐輔			ベンチャーファイナンス特論	本学客員教授、経済学博士、東京都立産業技術大学院大学教授
城 裕昭		○	企業イノベーション特論、実践事業デザイン特論、実践事業創造特論	本学北近畿地域連携機構連携研究員、高千穂大学准教授、元 SCSK 勤務等
鈴木 宏幸		○	マーケティング特論、実践事業デザイン特論、実践事業創造特論	本学北近畿地域連携機構連携研究員、豊橋創造大学教授、元 NTT データ勤務等
石丸 亜矢子		○	実践事業創造特論	本学北近畿地域連携機構連携研究員、接点株式会社 代表取締役、元野村総研勤務等

3.2 当教育プログラム運用状況

3.2.1 オリエンテーション

- 日時:2021/08/07(土) 13:00-16:00
- 場所:Zoom 実施
- 受講生:22 名

令和3年度福知山市委託事業
「NEXTふくちやま産業創造事業」

令和3年度NEXT産業創造プログラム オリエンテーション

～つながりと集積から新たな価値創造に「挑戦」～

日時：2021.8.7(土)13:00～15:00
〔次第〕

- 開会挨拶：本学学長（北近畿地域連携機構長）
- 講義概要：亀井教授（北近畿地域連携機構研究部長）
- LMS説明：城講師（北近畿地域連携機構連携研究員）
- 自己紹介：受講生
- 閉会挨拶：福知山市



福知山大学北近畿地域連携機構

福知山経済事情（必修）

▶ 講義概要
活躍する行政、起業された経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、広く福知山の経済事情を学ぶ。各界マネジメントのパースペクティブから捉えられた現状から、受講生各人が起業を考えるに当たり、どのような未来を描き、どのような課題を解決していききたいのかを考えるヒントを得ていくことを目的としている。

▶ 各回講義予定
大学、行政、商工会議所、地域企業、金融機関経営者、ベンチャー企業（ほか）

▶ 初回講師：井口和起
公立大学法人福知山公立大学 理事長
福知山公立大学 学長
北近畿地域連携機構 機構長



地域マネジメント特論

▶ 講義概要
経営学を学ぶうえで、必要と考える考え方を解説し基本的理解に重点を置く。経営に関する基本概念のうち、**市場、組織及び地域を巡る基本的な考え方を中心**にまとめる。事例を取り入れながら客観的に解説し、現実の地域社会において経営学が果たす機能を具体的に理解する。

▶ 開講日程：8/21,22,28*、29（合計8コマ、12時間） *オンデマンド実施

▶ 講師：板倉宏昭
福知山公立大学 客員教授
東京都立産業技術大学院大学 産業技術研究科 教授
AIITスタートアップ・アクセラレーター研究所 所長

東京大学大学院先端学際工学専攻博士課程修了。博士（学術）。マサチューセッツ工科大学（MIT）スローン経営大学院修了。日本IBM勤務、香川大学大学院地域マネジメント研究科 教授、同 研究科長等を経て現職。



ベンチャーファイナンス特論

▶ 講義概要
本講義の目標は、経営者の立場に必要なファイナンスの基礎を修得することである。企業が起業から事業成長する過程で、どのような資金調達手段があり、資金提供を受けるにはどのような要件を満たす必要があるかを学ぶ。企業評価の手法等コーポレート・ファイナンス領域においてアントレプレナーに有用なものについて学ぶ。

▶ 開講日程：8/28,29,9/11,12（合計8コマ、12時間）

▶ 講師略歴：三好祐輔
福知山公立大学 客員教授
東京都立産業技術大学院大学 産業技術研究科 教授

京都大学経済学研究科博士後期課程修了。博士（経済学）。京都大学経済学研究科 21世紀COE 研究員、佐賀大学経済学部准教授、香川大学地域マネジメント研究科准教授を経て現職。専門は、ファイナンス、法と経済学。



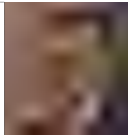
マーケティング特論

▶ 講義概要
デジタル時代の本格到来やグローバル化の進展など著しい環境変化が進む今日、スタートアップにおいて**顧客創造や事業創造を成功に導くマーケティング**は重要性が増している。本講義では、主にスタートアップに必要なマーケティングの視点・分析・検討留意点・策定等について、基本と本質を理解し、実際の課題解決に活用できる実践的な知識と習得を目指す。

▶ 開講日程：9/4,5,11,12（合計8コマ、12時間）

▶ 講師：鈴木宏幸
福知山公立大学 北近畿地域連携機構 連携研究員
豊橋創造大学経営学科 教授、中小企業診断士。
AIITスタートアップ・アクセラレーター研究所 運営委員

東京都立産業技術大学院大学産業技術研究科修了。
NTTデータユニバーシティ 勤務を経て現職。
専門は、新規事業戦略、ビジネスモデル



実践事業デザイン特論

▶ 講義概要
先端的な事業開発の事例（ケース）をチーム検討する。授業前半は、事例を理解することを通じて、その業界における課題を認識し、その課題に挑む**事業マネジメントを疑似経験**する。後半は、課題を克服する事業モデルをチームで構築し、結果を**プレゼンテーション**する。

▶ 開講日程：10/16,23,30,11/6（合計8コマ、12時間）

▶ 講師：亀井省吾
福知山公立大学 地域経営学部 教授
東京都立産業技術大学院大学 客員教授
多摩大学大学院 経営情報学研究科 客員教授

中央大学総合政策研究科博士後期課程修了。博士（学術）。東京海上火災保険（株）勤務。ベンチャーキャピタル代表 産業技術大学院大学特任教授を経て現職。本学講義「グローバルビジネス」「地域ベンチャー育成論」など担当。



3.2.2 福知山経済事情

- 日時：2021/08/18(水),9/1(水),15(水),29(水),10/13(水),27(水), 11/10(水),11/24(水)
18:30-20:00
- 場所：Zoom 実施
- 受講生：22名

活躍する行政、経営者、支援団体のマネジメントを講師に招き、オムニバス形式で広く福知山の経済事情を学ぶ。行政の政策や地域企業の戦略、スタートアップの現状と課題について学ぶ。



進化する地域金融

～リレーションシップバンキングに
軸足を置いた但馬信用金庫の取組み～

但馬信用金庫 常務理事
総合企画部長 宮崎健生
tsukibabu@tambin.co.jp

但馬信用金庫 Welcome to TAMABA CREDIT CO-OP BANK
地域の皆さまに愛され、信頼される金融機関 ― 質のふれあいソリューション

1: 会社紹介

創業	74年
社員数	105名
拠点	北近畿圏内7、京都府内1
売上高	84億円
主要取引	県と大株
取組品	業と大商 (約20) (他開業)

We The Philosophy
私達は、毎日がちゃんと幸せで、
成長するいい会社を創ります



地方銀行と地域との関わり ～公民連携の取組み～

2021年10月27日
株式会社京都銀行
公務-地域連携部
観光・地域活性化室長 五郎 孝幸

3.2.3 地域マネジメント特論

- 日時:2021/08/21(土),22(日),28(土)*,29(日) 12:50-16:00
- 場所:Zoom 実施
- 受講生:9名
- *オンデマンドにて実施

経営学に関する基本的な概念を理解し、経営や地域ビジネスに関する関心を深める。経営学と地域ビジネスに関わる基本的な考え方を検討することで、これらの理論が、実務においてどのように有効か、実務に照らして検証する。



第8章 地域と経営
8.2 地域価値連鎖 (地域リチェーン)
地域コミットメントの概念

地域コミットメント.....個人と地域の関係
個人がある地域に対して、どのような観点からどの程度かかわっているか

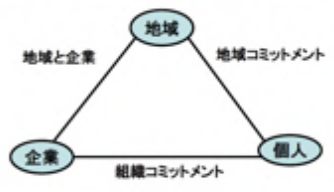
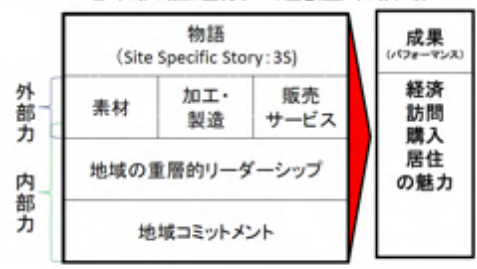


図5.1 地域コミットメントの概念図
Copyright © Hiroaki Itakura 2021. All rights reserved.

第8章 地域と経営
8.2 地域価値連鎖 (地域リチェーン)

地域価値連鎖:「超」産業戦略



Copyright © Hiroaki Itakura 2021. All rights reserved.



第8章 地域と経営
8.2 地域価値連鎖 (地域リチェーン)
地域コミットメントの概念

地域の内在化
地域の問題を自分自身の問題としてとらえ、個人が地域を内在化 (internalization) あるいは同一視 (identification) する

地域愛
地域への愛着 地域を誇りとして氣に入っている

地域への功利的関心
経済的理由や地域に於ける何らかの利己的な判断 継続的に留まりたい

地域への使命感
地域に対するの使命や意義 地域にどこか恩義がある

第8章 地域と経営
8.2 地域価値連鎖 (地域リチェーン)
8.2.1 外部・内部空間の分析

「**内部空間**」は、地理空間を、外的・内的という二つの空間に分けることによる。この区分モデルのもとでは単純な意味論的解釈は、あり得ない。 (J. Latham, 1979, p.292)

内部空間は、理由線と外部空間から分析、境界を明確な言葉で表せる。境界が起これば、外部との関与は増え、複層的な地域社会の動きが生まれる。

図5.2 内部・外部空間の境界と移動

3.2.4 マーケティング特論

- 日時: 2021/09/04(土), 05(日), 11(土), 12(日) 08:50-12:00
- 場所: Zoom 実施
- 受講生: 14名

スタートアップに必要なマーケティングの視点・分析・検討留意点・策定等について、実際の課題解決に活用できる実践的な知見の修得を目指す。顧客視点に基づき、事業環境分析やマーケティング戦略をデザインすることを事例やミニケースも活用しながら学ぶ。加えて、最新のデジタルマーケティングについて入門的な理解を図る。

内部収益率(IRR)とは

今、初期投資10,000千円で5年間毎年500千円づつ利益があり、最終年度に元本の10,000千円が戻ってくる債券を考えてみましょう。

各期のCF(キャッシュフロー)をR%で複利計算した場合の折戻価値を求める(次頁のF1~F5を参照)。それらを合計し、その合計金額が、初期投資額10,000千円をR%で複利運用した金額と同じになる。このRがIRR(内部収益率)である。

IRR(ハードルレート)からNPVへ

ハードルレートに足りない場合は、実は投資の機会損失が起こっている。
↓
NPVを算出することが必要。
NPVは、各期のCF(キャッシュフロー)を現在価値に直して、その合計額から初期投資額を控除した金額で表したものである。
つまり、各期のCFをハードルレート(5%)で割引いてNPVを算出する。
↓
NPVがプラスであればハードルレートよりも高い収益を得られるという判断になる。NPVがマイナスであればハードルレートよりも低い収益になるので事業投資は見送りという判断になる。

NPVの計算例(IRR=0.05)

各期CFをハードルレート5.0%で割引く

単位:千円	事業投資元のキャッシュフロー(CF)
100,000	① 初期投資額
21,000	② 1年目CF
22,000	③ 2年目CF
23,000	④ 3年目CF
24,000	⑤ 4年目CF
25,000	⑥ 5年目CF

① NPV (正) 96,154

② CF現在価値の合計 20,000

③ 1年目CFの現在価値 20,000

④ 2年目CFの現在価値 20,000

⑤ 3年目CFの現在価値 20,000

⑥ 4年目CFの現在価値 20,000

⑦ 5年目CFの現在価値 20,000

ホープ自動車のCFの推移(NPV=0)

年次	CF
1年目	21,000
2年目	22,000
3年目	23,000
4年目	24,000
5年目	25,000

WACC=Weighted Average Cost of Capital

MVA及びEVAがプラスの時

3.2.6 企業イノベーション特論

- 日時:2021/08/21(土),22(日)08:50-12:00,9/04(土),05(日)12:50-16:00
- 場所:Zoom 実施
- 受講生:12名

イノベーションの本質を理解するには、自社が持つヒト・モノ・カネ・情報などの経営資源や知的資産など知財も合わせ、現状を理解しながら実際に絵を描いていくことが重要である。新しい知識を増やしながら、ツールやフレームワークを活用して、イノベーションしていくための道筋を探っていく。

イノベーションの方法



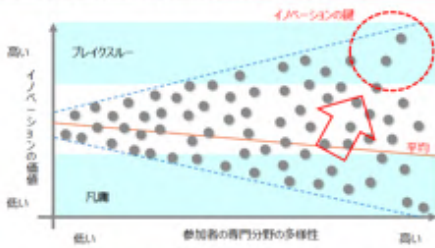
図表出典: http://iand.uq.edu.au/~iand.uq/content/uploads/2013/10/image_14.png

イノベーションの起こし方

イノベーションを起こすには、人と組織がポイント、システム × デザイン × マネジメントという発想が必要。



BS参加者の多様性とアイデアの傾向



出典: 経産省「中小企業イノベーション支援政策」p.26 | Harvard Business Review, Vol. 82, Issue 9, Sep. 2004

「収入の流れ」と「顧客との関係」を記載する

収入の流れのプロックは、企業が顧客セグメントから生み出すお金の流れを記述する。顧客は、自社のどのような価値にお金を払うのか、自身に問いかけながら記述する。どのような課金メニューがあるかを考えると分かりやすい。一過性の収入と、継続的な収入を区別して考える (継続収入は強固な収益基盤となる)。

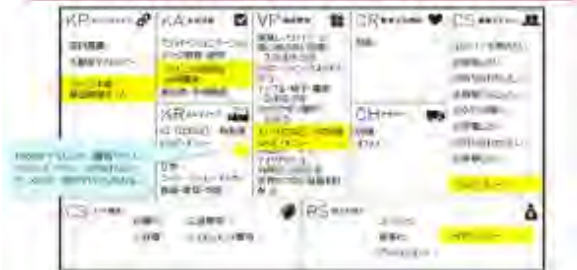


ミニケース ② ※ケース1と文章は同じ

A社は、京都市内に本社を置く老舗の水産加工会社である。従業員はアルバイト・正社員合わせて50名、加工工場は京丹波町にある。主に生鮮凍結物を製造・販売し、柏崎や西京蒲のほかに、旬産物産物の「いこ」が新商品である。社長(女性)は5代目、現年60歳の父親が48年前に事業創業した。親戚は、このA社の専務役員にはあるが、地元の競合企業は減少傾向のため、女子生徒が息詰めるルウも現れている。他の競合企業、外国産が増えている。



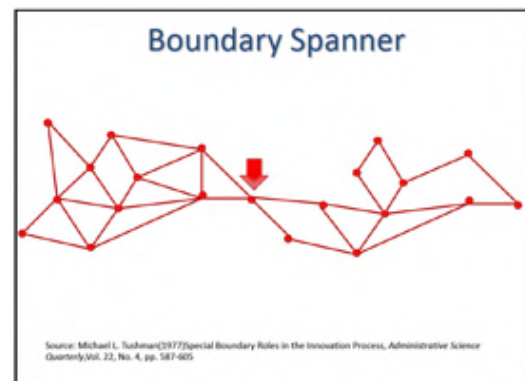
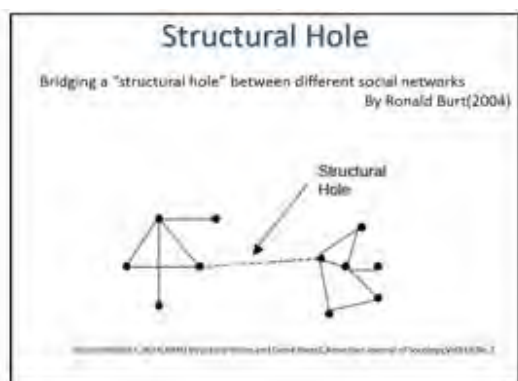
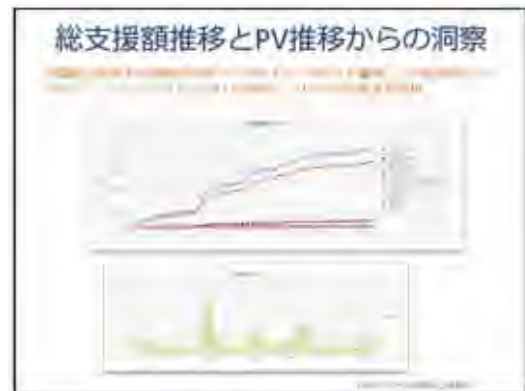
スターバックスのBMCをBtoBに「ずらす」



3.2.7 実践事業デザイン特論

- 日時: 2021/10/16(土), 23(土), 30(土) 12:50-16:00, 11/6(土) 08:50-12:00
- 場所: Zoom 実施
- 受講生 20名

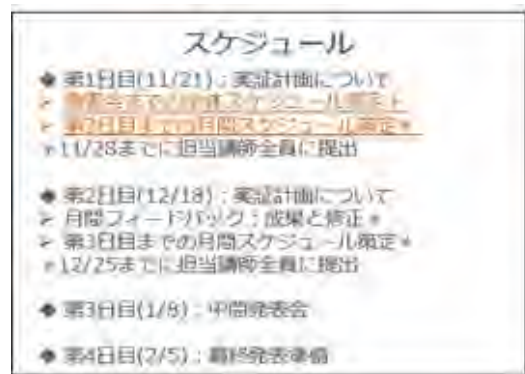
先端的な事業開発の事例(ケース)を研究する。事例を理解することを通じて、その業界における課題を認識し、その課題に挑む事業マネジメントを擬似経験する。どのような課題があるかを明確にした上で、ソリューション(解)をチームで発案、検討し、結果をプレゼンテーションする。



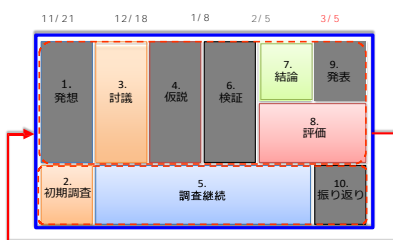
3.2.8 実践事業創造特論

- 日時: 2021/11/21(日), 12/18(土), 2022/01/08(土), 02/05(土) 12:50-16:00
- 場所: 福知山公立大学 2号館 1F 教室、Zoom 実施
- 受講生 20名

プログラム最終段階として、現実の課題に対する課題解決やソリューションを具現化すべく事業開発のプロジェクトを実行する。知識・スキルの活用経験を蓄積し、実際に活用できるように錬成を重ねるために、PBL 型の演習授業を行う。



PBL Element Process



出典：亀井竜吉、小山博司、戸沢健夫、藤森賢「PBLフィードバック・ループ形成と学習人材の多様性 - 福岡大学での社会人学び直し事業からの発見」情報処理学会 情報教育シンポジウム SSS2016予稿集掲載論文を加工

本日コアミーティング時間割

チーム	13:20-13:30	13:30-14:20	14:20-14:30	14:30-15:00	15:00-15:10	15:10-15:30	15:30-15:40	15:40-15:50	15:50-16:00
A	石丸	チーム内討議			石丸	チーム内討議			
B	板越	チーム内討議						板越	チーム内討議
C	チーム内討議	板越	チーム内討議			板越			
D	鈴木	チーム内討議		鈴木・板越	チーム内討議				
E	チーム内討議	亀井	チーム内討議			亀井	チーム内討議		
F	チーム内討議	石丸	チーム内討議			石丸			
G	チーム内討議	鈴木	チーム内討議		鈴木				
H	チーム内討議	石丸・板越		チーム内討議					
I	根岸								

3.2.9 プログラム運用結果

本プログラム科目の履修状況は以下表 7 のとおり、基礎科目においては、受講生全員 22 名が必修にて受講する福知山経済事情以外の選択必修 4 科目について、1 科目平均約 12 名が受講し、必修選択 2 科目に合格した 20 名が事例研究型である実践事業デザイン特論に進んだ。更に、実践事業デザイン特論に合格した 20 名の内、全員が PBL 型科目である実践事業創造特論に進み、最終的に 20 名が本プログラムを修了した。授業評価アンケートによると、対象外の実践事業創造特論以外の 6 科目は、5 段階評価で 4.72 の評価平均を得ている。尚、担当講師には結果をフィードバ

くしつつ、講義内容の一層の改善を促している。

表 7 平成 30 年度プログラム受講者の集計

	履修者数	授業評価	合格者
福知山経済事情	22	4.68	20
地域マネジメント特論	9	4.73	8
マーケティング特論	14	4.60	13
ベンチャーファイナンス特論	11	4.87	11
企業イノベーション特論	12	4.82	12
実践事業デザイン特論	20	4.61	20
実践事業創造特論	20	-	20

3.2.10 PBL 成果報告会

令和 3 年度実践事業創造特論のチーム構成は、テーマ別に 9 チーム。各チームの進捗については、担当講師によるコアミーティングの他、産業界からアドバイザーやコンサルタントを招聘し、レビューを実施、意見交換を行った。なお、令和 4 年 3 月 5 日には、Zoom にて PBL 成果報告会を実施した。

表 8 令和 3 年度 PBL

	人数	タイトル
A チーム	2 名	地産地消キッチン「D1 cafe」～福知山から生み出すお米の未来～
B チーム	4 名	福知山産キキョウを活用した石鹸で、健康肌づくりを全国へ
C チーム	2 名	樹上完熟三和ぶどうジュース ～農家が取り組む SOGs～
D チーム	1 名	「ZuT(ずっと)溶けにくいアイスクリーム」がつなぐ栄養支援のかけ橋
E チーム	3 名	事業承継・創業・移任の「三位一体策」～地域ぐるみで人を呼び込む～
F チーム	3 名	「NEXTE 福知山」～NEXT 修了生による学びの実践を通じた地域エコシステム構築～
G チーム	2 名	「中小運送会社 DX」による新規事業展開 ～アナログ人海戦術から脱却して生産性を向上する～
H チーム	1 名	廃棄物を資源に変える ～サステナブルプロダクトによる地域エコシステム創造に向けて～
I チーム	4 名	親子の可能性を共有する事業 ～廃校を活用した福知山の人財を育む場づくり～

3.2.11 PBL 成果報告会及び修了式次第

- 日時:2021/03/05(土) 13:00-16:00
- 場所: Zoom
- 参加者数:65 名
- スケジュール

13:00-13:05 開会挨拶 井口 和起 氏(福知山公立大学 学長)

13:05-13:15 プログラム及び成果発表概要説明 亀井 省吾 氏(福知山公立大学 教授)

13:15-14:55 成果発表

15:05-15:25 講評コメント 前川 二郎 氏(福知山市 副市長)

西山 周三 氏(福知山産業支援センター センター長)

板倉 宏昭 氏(東京都立産業技術大学院大学 教授)

15:25-15:50 プログラム受講生修了式

15:50-15:55 総括 亀井 省吾 氏(福知山公立大学 教授)

15:55-16:00 閉会挨拶 大橋 一夫 氏(福知山市 市長)



* 撮影時のみマスクを外しています